



CONTENTS

2018年度 聖句

「わたしがあなたがたを愛したように、
あなたがたも互いに愛し合いなさい。」

(ヨハネによる福音書第13章34節)



学習課題の意義と成果	2
クリスマスと礼拝の恵み	3
専攻科介護福祉専攻特集	5



学習課題の意義と成果

来た道、行く道、過ぐる日々

—卒業生の訪問を覚えて—

副学長・教務部長 松浦 浩樹



展的な学びでもありません。この学びには追体験に支えられる根底的な「安心感」があります。

ところが、その先の高齢者の介護の学びは、誰も自己体験がありません。若返りや生き返ることのない人間には「死」がある以上、高齢期の追体験はできません。「老々介護」に迫られている方のみが、共感的な追体験できるものなのだろうと、そこを推測しています。ですから、介護の学びは、全くの未知の世界の学びであり、何をどうしたらいいのか、学び手にとっては経験知のない根底的な「不安感」を伴う学びと言えます。

40歳過ぎたら「初老」というところで、その意味でとくに「高齢者」の仲間入りしている私としても、気力・体力・記憶力等々、様々な抵抗(努力?)を重ねながらも、これからどうなっていくのかという自分自身に対する不安感をもちつつ、過ぎゆく多忙な日々を歩んでいます。

しかしながら同じような精神性が、今の学生の日常にも蔓延っているのではないかと感じさせています。子どものこと、そして保育の実践的な学びには安心感と楽しさがあります。しかし、今を生きる学生にとって、これらの学びに付随して提示される多くの課題は、将来いつ

たい何の役に立つのかが見えていないため、「やらされ感」满怀で不満のようです。さらにその先にある実習での学びも、そして就職も、子どもと接する楽しみよりも、「勤務として未知の世界に自分の身を置くこと」に対する緊張感と不安感の方が強いようです。

さて、ハッピーマンデーでも授業をしている本学に、「和泉は今日も授業をしているに違いありません。先生たちに会いに行こう!」と自分たちが学生だった頃の「勤」だけを頼りに4名の卒業生が本学に戻ってきて、私を訪ねてくれました。写真はその時のものです。最近の生活振り、恋愛の話、給料や待遇の話、様々に話が飛び交う明るい4人。私もその中において心から楽しい気持ちにさせられ感謝の時でした。でもやはり、皆さん保育職!話では子どものこと、保護者のこと、クラス運営のことが中心。待遇面や職場の人間関係は様々な葛藤はありながらも、この4人の卒業生は今の自分の仕事に使命や生きがいを見出しているように私には思えました。

そのような話の中で、一人の卒業生が

「本当に和泉で、よかったです。今、今つくづく思うんです。学生の頃は、課題は多いし、その課題をクリアするために和泉に友達が残って、一緒に乗り越えたり。なんでこんなにしなくちゃいけないの?って、めちゃくちゃ不満だったこともあったけど」、

するともう一人が

「そうそう、でもそれがあったから、今の私たちがあって、今頃、気づいたんですよ!」
私が「たとえば?」と問い返すと

その内一人が「この間、指導案を出せって職場で指示があったことがあって、同期で入った他の学校出身の人が書けなくて苦しんだ。提出日まで時間が短くて文句も言った。でも、私はなんで、このくらいのこと?と思っただけです。私、すごいでしょ?高校までは自分のこと、出来ない子と思ってたけど、働き始めて、他の学校出身者と比べて、私、出来るじゃん!って自信がもてるようになったんです。」

「そうそう、和泉にいる間、あれだけ苦労して課題やった甲斐があった、っていうか!」

「でも絶対、自信につながってるよね!」

そこで私が「今の学生は、あなたたちの時よりも、課題を減らしているつもりなんだけど、まだ多いっていう不満があるらしいから、減らそうと思ってるけど...」と話すと、

4人ともが「だめ、だめですよ。課題をこなす、協力する、これがなくなったら、絶対だめですよ。私たちも、そうだったけど、課題が出ないと絶対、何にもしないから!」

「私たちが、直接、後輩たちに話してあげてもいい!こんな私たちに出来たんだから、後輩の皆はもっとできるって、言ってくれ!いつでも説得に来ます!私たちを呼んでください!」

こんな内容だったと記憶しています。この屈託の無い、卒業生という未来像が、現学生の不安感を取り除いてくれるかもしれない、未来への不安感が軽減すると現在の「課題」に対して、少しでも意味を見出し、不満を和げるかもしれない、そんなことを思い巡らせながら、この4人組に「説得の時」を依頼することが出来ないまま、過ぎる日々を過ごしてしまいました。不満感を抱きながらも課題に誠実に向き合い、単位を一つ一つ取得していくことで、社会人への自信と希望を培っていったこの4人の卒業生に、私が背中を押されたひと時でした。

足早に過ぎる日々、自分が歩んで来た道を顧みつつ、これから行く道を推し測る時、その測りに少しでも多くの明かりが灯もされますようにと祈りつつ...



クリスマスと礼拝の恵み

チャプレン 西田恵一郎



クリスマスはイエス・キリストの誕生を祝う日です。これを知る人は多く、祝い方も国や民族によって様々あります。伝統的にはプレゼントやカードのやり取り、ミートローフやシュトレンといったクリスマスならでのグルメが用意された食卓を囲む家族団らんの時。装飾では、クリスマスツリーは言うまでもなく、ドアや壁に掛けるリース、イエス降誕のシーンをジオラマで再現したクリブ、クリスマス到来を指折り数えて待ち望むためのアドヴェントカレンダーなどがあります。どれをとっても心躍るものばかり。その上、それぞれにはキリストにまつわる意味があります。それを知ること

わい深いものになること
でしょう。

何よりも大切なのは、人としてお生まれなされたイエスが神の子であったということ。独り子を世に送るといふ苦しみを知った父なる神の愛と、人の苦しみや悲しみを知り尽した子なるイエスの愛が明確な形で人間に表されたのがクリスマスです。その目的はイエスを信じる者が永遠の命―神と共に生きる命―を得るようになるためでした。

幼子イエスを拝みに行った占星術の学者たちの手には高価な贈り物が携えられていました。一方、貧しい羊飼いたちは何も持たず、ひたすら乳飲み子の許へ急ぎました。いずれにせよ、神様が求めておられるのは、あなた自身であり、あなたが礼拝を通して神様と交わりを持つことです。今年のクリスマス、教会に足を運び、神様を礼拝する恵みにぜひ与ってください。

和泉短期大学のクリスマス行事 12月 3日(月) クリスマスツリー点火祭 12月 8日(土) クリスマスコンサート 12月17日(月) クリスマス礼拝

2018年度 表彰者紹介

眞鍋記念奨学金(前期)

2年 森井 美穂

(都立富士森高等学校出身)



1年前期・後期に続き、素晴らしい賞を頂き感謝申し上げます。

実習を終え、和泉での学びも集大成へと向かっていると感じています。そのことを踏まえて、自分にしっかりと向き合い、来年4月から現場に出る保育者として今、出来ることを積み重ねたいです。そして、自分に足りない点、更に伸ばしたい点を見つけ、糧となるよう努力していきたいと思えます。

2年 久富 朋代

(私立佐賀清和高等学校出身)



保育の専門知識や技術を身につけたいという強い気持ちを持ち、日々楽しく勉強させていたできております。合わせてこのような賞も頂くことができ大変光栄に思います。ありがとうございます。

1年 根岸 文音

(私立日本大学第三高等学校出身)



この度は、このような賞を頂くことができ、嬉しく思います。熱心に学生に向き合っている先生方や、家族や、助け合える友人のお陰で、充実した学生生活を送れていることに感謝しています。今後

1年 立石 陽菜

(都立片倉高等学校出身)



今回、このような名誉ある賞を頂きましてありがとうございます。和泉での授業を受けて学ぶことの楽しさを初めて知ることができました。沢山の支えのもと学べる環境があることに感謝し今後も良い保育者となるよう向上心を持って学んでいきたいと思えます。

専攻科介護福祉専攻 牧野 広大

(県立愛川高等学校出身)



この度は名誉ある賞を頂きましてありがとうございます。私が専攻科で充実した生活を送ることができるのは丁寧な指導をしてくださる教職員の方々や、学び合う友人、そして家族の支えがあるからです。皆様への感謝の気持ちを忘れずにこれからの学校生活を大切に過ごしていきたいと思えます。

和泉短期大学学長賞(前期)

1年生 中本 梨奈

(県立愛川高等学校出身)



この度は学長賞という名誉ある賞を頂き、ありがとうございます。このような賞を頂けたのは、応援してくれました友人、先生方、そして家族です。今回の大会で、辛い事やプレッシャーもありましたが、このような結果を残すことができ心から嬉しく思います。これからも諦めない気持ちを大切にどのような事でも全力で頑張りたいです。

TOPICS

第52回 いずみ祭テーマ「秋だ！和泉だ！いずみ祭だ！～IZUMI festival 2018～」10月26日(金)～28日(日)

- 前夜祭** シンガーソングライターで、本学2002年3月卒業生の Nakamura Emi さんによる凱旋ライブを実施しました。メジャーデビュー曲「YAMABIKO」を含む全5曲を熱唱し、興奮の渦を巻き起こしました。
- 保証人会** 10月27日(土)、1年生の保証人を対象に第6回「保証人会」を開催しました。初めての実習に向けて、「実習サポート講座 ― 初めての实習へ、日常生活でできる10のこと」と題し、山本実習サポートセンター長より説明を行った後に、保証人とグループアドバイザーとの個別面談を実施致しました。
- 健康測定コーナー** 相模原市中央保健センター、シダックスコントラクトフードサービス株式会社の協力により、お口の健康チェック、体組成チェック、お肌チェック、ストレス度チェック、簡易骨密度チェックを受けられる健康測定コーナーを開催しました。近隣にお住まいの方や高校生、本学学生等延べ205名の利用がありました。
- 青葉2丁目自治会参加** 本学が所在する相模原市中央区青葉2丁目自治会の皆様に模擬店を出店いただきました。自治会名物の焼き鳥、フライドポテト、豚汁が大好評でした。
- 和泉短期大学父母会** 父母会は「お休み処」を出店し、無料のお菓子と飲み物が大好評でした。
- 和泉短期大学後援会** 後援会はおいしい焼きそばとあらびきソーセージを出店しました。あまりの美味しさにお昼には売切れてしまうほどでした。
- 同窓会** 同窓会は、同窓生・恩師の先生方との交流スペース「いずみのひろっぱ」には、多くの卒業生の皆さんにお越しいただきました。卒業生のお子さんもたくさん集まり壁面作りやキッズコーナーに夢になっていました。
- サウンドコンテスト** 10月27日(土)、1年生、2年生、専攻科生のグループごとにサウンドコンテストを行いました。グループ一体となって、今年の課題曲1年生「和泉短期大学カレッジソング」、2年生・専攻科生「手をつなごう」と自由曲を歌いました。各グループが様々な衣装や歌の表現を工夫したサウンドコンテストでした。
- 保育出展** 今年の保育出店は、縁日、スタンプラリー、風船ランド、ヨーヨーつりなどでした。どの出店も子ども達で大盛況で、和泉らしさが出せた保育出店でした。



第19回 おもちゃインストラクター養成講座が開催されました

2018年8月23日(木)、24日(金)の2日間、第19回おもちゃインストラクター養成講座を開催し学生52名が受講しました。

日本グッド・トイ委員会のおもちゃコンサルトマスター 山口裕美子先生ご指導のもと、手作りおもちゃの技術を習得するとともに、世界のおもちゃ文化を知り、日本のおもちゃの現状とその役割を実践的に学びました。

2日目の受講を終えた全員に、認定NPO法人 芸術と遊び創造協会より「おもちゃインストラクター認定証」が授与され、有意義な講座となりました。



第10回 (2018年度) 相模原市内高等学校校長と和泉短期大学との教育研究会を開催しました

2018年9月12日(水) 相模原市内9校の高等学校から校長先生にご参加をいただきました。

第10回の開催にあたり本研究会の10年間の記録をまとめた記念誌を作成し、横川教授より「本研究会の10年の歩みについて」として報告が行われました。

続いて、第10回開催を記念して、深町正信理事長より「見えないものに目を注ぐ教育」と題して、基調講演が行われました。

各高等学校の先生方からいただきましたご意見などを参考として、地域に根ざした短期大学として教育改革に取り組み、今後とも市内高等学校との連携強化に力を注いでいく所存です。



第18回サンクスギビングフェア開催

10月17日(水)「サンクスギビングフェア」を開催しました。

今回のフェアの目玉は、自分で顔を描く「ハロウィンおぼけハンバーグ」。ハンバーグに色々な表情が描かれていました。

大好評のうちに終了しました。次回は12月にクリスマスフェアです。



ソロプチミスト日本財団より感謝状と国際ソロプチミスト相模「クラブ賞」を授与されました

2018年10月18日(木)、相模原市民会館(4階 第3中会議室)において、本学ボランティアサークルが、公益財団法人ソロプチミスト日本財団より「学生ボランティア賞応募感謝状」および、国際ソロプチミスト相模「クラブ賞」を国際ソロプチミスト相模 永保恵子会長から授与されました。

ボランティアサークル代表として挨拶をした児童福祉学科2年今村風香さんは、「これからも、地域の皆様に喜んでいただけるような活動を続けていきたいです。このたびはありがとうございました」と、感謝の言葉を述べました。



◆◆◆◆◆ 専攻科介護福祉専攻はどんなところ？ ◆◆◆◆◆

専攻科主任 佐久間 志保子

日本で最初の養成機関として「和泉老人福祉専門学校(2年制)」を開設したことが専攻科の発端です。その後、和泉福祉専門学校を経て、2010年和泉短期大学に専攻科介護福祉専攻に改組しました。専攻科ではこれまで高齢者介護、障がい者支援を目指す学生の他にも保育を目指す学生も在籍してきました。2018年現在、171名の卒業生が介護・保育の現場で活躍しています。

2017年度より介護福祉士になるために国家試験が導入されました。学生の頑張りで合格率91.3%と高い結果を得ることができました。これからもきめ細やかに学生一人一人に合わせた指導を目指していきます。保育士資格を持っている卒業生の皆さん、どうぞ専攻科で一緒に学びませんか。

実習施設との強い連携と卒業生から受け継ぐこと

実習担当 佐藤 美紀

専攻科での実習は、実習Ⅰ(6日間)、訪問介護実習(2日間)、実習Ⅱ(20日間)と1年で3回行われます。その特徴は、受け入れ先が、専門学校時代から長きにわたりお世話になっている施設ばかりということです。それは、年に1度「実習連絡会」を開催し、実習施設と養成校の連携を大切にしてきた成果だと思えます。学生が実習で多くの学びを得られるように、和泉の実習への教育スタンスをお伝えしてきました。実習指導者の方も熱心にそれに応えてくださったことが今、実りつつあると実感しております。学生の「実習楽しい」「丁寧に教えてくれる」の言葉が何よりの証しです。

11月に実習Ⅱが行われ、教員は4回ほど実習施設に巡回に行きました。嬉しいことは、卒業生の活躍です。施設長、主任、実習担当と様々ですが、多くの卒業生が実習生を支えてくれていると思うと心強く感じます。そのように学生は卒業生に見守られ、和泉の介護への思いが継承されていくのだと実感しています。



撮影協力：介護老人保健施設青葉の郷
和泉福祉専門学校・専攻科卒業生と実習生
(奥)鈴木・鳥飼・棚澤・杵山・栗山
(手前) 大滝・田中(実習生)

第17回かながわ高齢者福祉研究大会 介護技術発表部門 優秀賞 専攻科5期 鈴木 朝子さん



毎年、パシフィコ横浜で開催される「かながわ高齢者福祉研究大会」。専攻科学生は研究発表や就職相談のブースへ伺ったりしています。今年度は介護技術部門の発表で専攻科第5期卒業生の鈴木朝子さんが優秀賞を受賞しました。発表当日、鈴木さんの流れるような介護技術に、「あなたの声かけと表情に魅了されました」と講評をいただいていた。専攻科の卒業生が、特別養護老人ホーム陽だまりの代表として発表し受賞されたことはとても喜ばしく誇りです。おめでとうございます。

2019年度専攻科介護福祉専攻 今後の入学試験日程

・C日程 出願期間	2018年12月17日(月)～12月20日(木)	入学試験日	2019年 1月12日(土)
・D日程 出願期間	2019年 1月10日(木)～1月25日(金)	入学試験日	2019年 2月 5日(火)
・E日程 出願期間	2019年 2月 7日(木)～3月 5日(火)	入学試験日	2019年 3月13日(水)

人事

事務職員

退職

(2018年7月31日付)

小池 友子 学術情報ユニット (非常勤)

(2018年9月30日付)

青木 誠 ラーニングセンターウィル 基礎学力支援者(非常勤)

任用

(2018年10月9日付)

青木 裕美 学生支援ユニット (非常勤)

表彰

公益財団法人日本キリスト教文化協会

第49回キリスト教功労者顕彰

長山 篤子 理事

一般社団法人キリスト教保育連盟

〈永年勤続表彰〉

川上 美智留 庶務ユニット (経理担当)サブリーダー

訃報

故 沼尾ハル子氏

沼尾 千代子非常勤講師 ご母室 (2018年5月30日)

故 下西 つね氏

下西 潤子特任講師 御義母 (2018年7月20日)

故 深町 順子氏

深町正信理事長 御令室・深町和哉 学術情報ユニットリーダーご母室 (2018年11月6日)

主による平安をお祈りいたします。

2018年度「教育環境充実資金募金」のお願い

学校法人和泉短期大学は1956年4月東京都世田谷区中町に「バット博士記念養成所」を開設し、同年5月「現任訓練講習会」を開催したことに始まります。1960年、その現任訓練機関が「玉川保母専門学院」となり、1965年に「和泉短期大学」が設立され、2018年5月に学校法人和泉短期大学は創立62年を迎えます。

学校法人和泉短期大学を卒業された卒業生は19,025名の方々の働きや努力と活躍により発展成長したものと深く感謝申し上げます。

和泉短期大学は、教育の充実を図り、学修環境整備、施設設備の維持整備を目的に2018年度も「教育環境充実資金募金」を行うことになりました。

皆様には出費多難な折とは存じますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

募金対象事業

震災・災害対策：1号館3階図書館天井耐震補強工事

教育環境整備：ノートパソコン33台増設

(ラーニングセンター will)

寄付者一覧(敬称略) <2018年6月1日～11月30日>

渡辺 毅/山崎 勉/高橋 麗子/山口 裕之/湯本 武王/松本 和夫/長山 篤子/福嶋美佐子/久保 芳子/川井 俊幸/片山 知子/今泉 治子/山本美貴子/武石 宣子/八代 陽子/小澤 博道/下西 潤子/横川 剛毅/松下 誠/森 三樹/佐藤 秀夫/池田 悦子/小椋 郊一/岸川 洋治/石川 佳代/佐久間志保子/伊藤 忠彦/佐藤 美紀/小野家善郎/深町正信・順子/緒方 久司/志村美佐子/平塚 豊/潮田 健治/佐藤 蘭美/佐藤 守男/雑賀えり子/森久保和子/岡田 京子/北崎 熙/新田 恭平/山崎三千子/田代 敦美/下谷 正道/古川 佳子/遠藤 陽子/春原ひろみ/曾根真理子/村上 優子/匿名希望/岩野喜美男/阿部美紗子/沖津みや子/田口喜久江/松本さなえ/高橋由美子/佐藤 建夫/松山由佳子/中畑 宏幸/大塚真光子/小池 教興
以上61件 832,000円

募金目標金額 10,000,000円

募金募集期間 2018年6月1日～2019年3月31日

募金金額 1 個人 1口 5,000円

2 法人 1口 10,000円

所得税・住民税の寄付控除

本法人への募金(寄付金)につきましては、年間2,000円を超える金額に対して、確定申告をすることにより所得税及び住民税の寄付控除を受けることができます。

法人募金の場合

法人からの募金(寄付金)につきましては、日本私立学校振興・共済事業団を通じて、「受配者指定寄付金」として全額損金算入することができます。

詳しくは下記までご連絡ください。

募金担当部署

学校法人

和泉短期大学

庶務ユニット(経理担当) 042-754-1133

2018年度 和泉短期大学「愛のいずみ基金奨学金」(給付型奨学金)の創設について

この度、本法人の原点であるララ物資の精神を引き継ぐため、経済的事情により修学が困難な学生を対象に本学教職員・法人関係者の方々からの寄付を中心とした本学独自の給付型奨学金基金を設立することになりました。

現在の社会・経済環境が甚だ厳しい状況にありますが本学独自の愛のいずみ基金奨学金の趣旨をご理解のうえ、和泉短期大学の学生の支援充実のため、一人でも多くの方々のご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

募金目標金額 3,000,000円

募金募集期間 2018年11月1日～2019年3月31日(第1期)

募金金額 1口5,000円

払込方法 郵便振替口座 口座番号 00280-6-105705

口座名 愛のいずみ基金奨学金

寄付者一覧(敬称略) <2018年11月1日～11月30日>

長山 篤子/松田 壯吾/武石 宣子/久保 芳子/小椋 郊一/深町 和哉/岸川 洋治/片山 知子 以上7件 250,000円

所得税・住民税の寄付控除

本法人への募金(寄付金)につきましては、年間2,000円を超える金額に対して、確定申告をすることにより所得税及び住民税の寄付控除を受けることができます。

法人募金の場合

法人からの募金(寄付金)につきましては、日本私立学校振興・共済事業団を通じて、「受配者指定寄付金」として全額損金算入することができます。詳しくは下記までご連絡ください。

問合せ先

学校法人

和泉短期大学

庶務ユニット(経理担当) 042-754-1133

オレンジリボン・キャンペーンを相模大野駅、橋本駅にて実施しました

2018年11月7日(水)17:30～18:30 JR横浜線 橋本駅 北口広場、11月14日(水)17:30～18:30 小田急線 相模大野駅 北口広場にて、オレンジリボン・キャンペーンを実施しました。

本学学生と教職員が、相模原市こども・若者未来局、相模原市民生児童委員協議会、相模原市児童虐待・いじめ防止連絡会、市内児童福祉施設の方々と協力して「児童虐待防止にご協力お願いします!」と呼びかけながら、学生が手作りしたオレンジリボン2,000枚を、駅を行きかう人々へ手渡しました。

今回の運動が少しでも児童虐待防止につながればと願います。本学は、「オレンジリボン運動」(児童虐待防止推進活動運動)に賛同しており、全学をあげて支援・推進しています。



事前のオレンジリボン作り



橋本駅・相模大野駅での街頭配布